

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300234		
法人名	有限会社 カワトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	長崎県西海市西海町横瀬郷		
自己評価作成日	平成26年 10月 8日	評価結果市町村受理日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年11月1日	評価確定日	平成26年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『グループホーム よこせ』は、自然に恵まれた歴史ある西海の地に立ち、利用者様は心温かい理解ある地域住民の方々に囲まれ日々穏やかに過ごされています。基本理念に基づき、入居者様、中心とした家庭的な雰囲気さらには此処に暮らすみんなが互いに自然と笑い合える環境作りを大切にシキアをさせて頂いています。また、地域行事やイベントに積極的に参加し、住民の方々との交流により生き生きと、しかも自立した生活をされることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”に到着すると、ご利用者の方々が笑顔で手を振って下さった。玄関は皆様のお気に入りの場所、ご利用者同士で外を眺めながら、日々団欒されている。ホームの畑には季節の野菜が育ち、保育所の子ども達と一緒にホームの芋掘りを楽しまれ、ご利用者からも「農業で暮らしてきたので、畑が一番居心地がよか」と、畑作業や庭先の除草作業を手伝って下さっている。地域の子ども達が学校の帰りにホームでお茶を飲まれたり、トイレを借りる時もあり、ご利用者も楽しみにされている。26年度は管理者が中心になり“笑いヨガ”にも取り組まれ、地域包括主催の“いきいきサロン”で、地域の方々と“笑いヨガ”を通しての交流も行われた。“グループホームよこせ”で過ごされる中で、ご利用者の方々が生活力を取り戻される方も多く、「海外(ナイアガラ)に行きたい」という意欲を引き出せた方もおられる。ご利用者全員の思いに寄り添い、家族や地域の方々とも協力し、全職員で夢を叶える取り組みを続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時に、基本理念、職員の心得、理念の唱和。この理念をもとに会議、カンファレンスにあっては常に確認しその本意を共有する努力をしているところです。	「理念」と「職員の心得」を大切にしたいケアが行われ、「職員の心得」にもある“自然と笑顔が出る”ために、管理者が“笑いのヨガ”のリーダー資格を取得し、ホームや地域で実践している。ご利用者は自主的に日々の活動(役割)を行い、買物や地域交流などを継続できる支援を職員全員で続けている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりが年々増えており、地元の認知症ケアサポートリーダーの方々が『遊びに来てもいいですか?』と来ていただき利用者様との交流を行っています。	「待っていてもダメ。自分から出向かない」と言うケアマネの教えを大切に、地域行事(町内清掃、運動会、敬老会、夏祭り等)に参加している。町内の運動会の反省会に声をかけて頂いたり、介護相談も受けている。小学生の体験学習の受け入れに向けた取り組みも続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の認知症ケアサポートリーダーの方々との交流と地域の総会などに出向き、いつでもご相談に応じますとの紹介を行っています。サポーターの方の名刺をそれぞれに作って差し上げました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	井戸端会議などで近所の方と折に触れお話をしたり、さらに行事に参加して頂き、運営に関するご意見、ご指摘をいただき、日々の暮らし、運営に活かし実践しています。	地域代表の方等と地域連携の在り方や苗の情報交換をしている。内容に応じて、警官や薬剤師、消防団長、保育所園長等も参加して下さり、ご利用者、家族、市役所の職員、認知症サポーターの方等と意見交換し、ホームの取り組みを理解して頂く機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿介護課、包括支援センター職員へその都度随時の連絡相談を行い、地域の状況などの情報交換を行っています。	日頃から市との連携ができています。運営推進会議の開催に関する意見を頂いたり、処遇改善加算などを相談した時にもアドバイスを下さっている。地域包括の方と認知症サポーター養成研修会の開催をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは一切身体拘束はしない・させない方針でケアを実践しています。振り返りのために外部研修、職員会議等で事例検討したり、個別アセスを行いながら拘束の確認を行っているところです。	「身体拘束は絶対にしない」という方針の基、ホーム内研修をしている。不穏行動の原因を見つめ、その原因解決に向けた取り組みを続けており、帰宅願望のある方には、「いつでも帰宅できる」「いつでも外出できる」と言う安心感を持って頂けるように支援し、次第に穏やかになられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミ情報により事例検討を行う。新しい入所者の方は早めに入浴サービスを受けて頂き身体状況をスタッフが確認できるように勤めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当ホームでの該当者はいらっしゃいませんが、外部研修等で学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望のお話があった時点から説明を行い、契約時やその後もご家族からのご質問があればその都度十分にご説明させて頂くようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、家族会や毎月1回の職員会議等でご家族様を交えてのカンファレンスを開催し、意見・要望をお聞きする機会を設けています。	家族との担当者会議が行われ、家族の思いや要望を伺っている。手紙で日頃の状況を報告したり、ホーム便りの郵送も続けており、家族会の際には家族同士の交流も行われている。今後も更なる要望を頂けるように、面会の時等の声かけを続けていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等での話は重要要件として認識して頂いています。	施設長等のお人柄もあり、和気あいあいとした職員会議になっている。ウッドデッキの屋根や車いすで散歩できるようにホーム周辺の舗装など、職場環境に関する要望も聞かれ、施設長等が適宜対応して下さっている。管理者や主任、ケアマネ等への相談も多く、チームワークは更に良くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りを考えて頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加に理解頂いており、全職員に関して常に関心を持たれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とことあるたびに連携を取り合い入居者様同士の交流会、訪問活動や研修、利用空き状況など連絡しあいながら連携を深めています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特に基本情報を聞き取る以外にもご家族様からの情報収集、生活状況・生活歴を聴き取るなどしています。又、スタッフがさらに暮らしの中で聞き取りを行い、ご本人の不安解消を図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は特に聞き取りを行います。その後は面会時にご家族のお話に耳を傾け、より良い関係づくりに努めています。又、行事の参加依頼や定期受診などにご家族様のご負担になられる場合は施設側が積極的に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込み時に利用者様の状況、ご家族様と施設との双方の役割や要望などを確認し支援・サービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念にも『共に助け合い、共に生きる、出会えたことの喜びとこれからの一生を大切に』とあるように、お互いの暮らしが楽しく感謝し合える生活を送れるように、常にお話やお手伝いをして頂きながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えることは、施設とご本人やご家族との信頼関係が大切ですので一方だけではなしえないことをご説明しますが、最近では交流が困難なご家族様が増えているようにも思われます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お買い物や病院受診の際、馴染みの方にお会いする機会が多いため、途切れない支援を行っています。又、面会に来て頂いた際は、笑顔でのおもてなしを心がけています。	馴染みの関係を大切にされており、近所の方も来て下さっている。地域行事や馴染みの商店、薬局等に外出し、地域の方との会話を楽しまれたり、ご本人の要望で“自宅でのお茶会”も実現できた。お墓参りにもお連れでき、葬儀や49日法要に、家族と一緒に参列できた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間で声掛け合ったり、困っている方のお手伝いをして頂いたり見受けられますので、職員がその都度感謝の言葉を掛けさせていただきます。又、トラブルが起きないように時には介入させて頂いています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退所された方のお見舞いに行っております。退所された方のご家族様より、畑で採れた物を頂いたりと関係を築いています。又、以前退所され自立された方とケアマネが月1回は、電話での連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご利用者様の訴えを傾聴し、ご本人の要望に叶うように対応するようにしています。	センター方式等を活用し、リビングでの団欒時や夜間等にご本人の思いに寄り添っている。「お参りしたい」「散歩がしたい」「畑がしたい」等の要望も聞かれ、計画に反映している。意思疎通が難しい方は、表情や目の輝きなどから思いを察し、「孫に会いたい」などの願いを叶えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報、居宅サービス、医療機関情報を元に、ご本人ご家族からは要望サービスの聞き取り、ご本人の生活歴などを聞き取りし、本人にとって生き生きと暮らせるようなケアに結びつけることを目標に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居様が一日を安心して過ごして頂けるように状態・様子の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、職員会議(個別検討)を活用するようにしています。	家族や主治医の意見も頂き、全職員が介護計画の作成に関わっている。ご本人のセルフも介護計画に盛り込み、生活歴や要望も大切に作成している。生活日誌には個々の計画内容を印字し、日々確認が行われている。「ナイアガラに行きたい」と言う思いも計画に記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基本に生活記録にも援助が追加される場合は記録しながら支援体制を強化しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、海外旅行をしたいといっている方がおられ、どうしたらいいのかご本人とケアマネが出勤時、話されています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が地域行事に参加されることで、地域の方から話しかけて頂いたり、地域の方が施設に遊びに来て頂いたりと楽しく暮らせる支援を地域の方のご協力のもとさせて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設側での指定医をおかず、利用者が居宅でのかかりつけ医との関係を保持しながら、急変時は紹介医を利用しています。	希望する医療機関に受診されている。症状の変化や内服に関する相談等を含め、医師との情報交換ができており、認知症等の確定診断もして頂いている。職員の観察力も高まり、病院の看護師にも相談できている。受診時は主に職員が同行し、家族とも受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には、看護師がいない為、ちょっとした変化などが確認した時点で、情報収集の末、係り付けの病院との連携を行うようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域支援室の担当職員との関係づくりを日頃から行うようになっています。また情報の共有を努めて行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年からの、検討項目ですが、了解を得ている家族もあるが、まだはっきりと文章化していないのが現状です。大切なことなので前向きに時間をかけ、行いたいと思います。	重度化した場合の支援は原則できない状況にあるが、希望に応じて主治医と家族等と相談し、最大限、ホームでの生活が継続できるよう努めている。ご利用者や家族の意向確認も行われ、26年春に終末期ケアが行われた。大好きな“ヌタ”と一緒に作り、美味しく食べる事ができ、転院ぎりぎりまで誠心誠意の終末期ケアが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は、AEDの操作を実践したが、今年度はマニュアルに順次行うこととしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月の職員会議の際、消火・通報・避難についての確認を行い、年2回は夜間想定し訓練を地域の方と行いそのうち1回は地元消防団と地域の方との協力を頂き訓練を行っております。	スプリンクラーを設置し、毎日の防災チェックも続けている。毎年11月9日(防災の日)に消防団や地域の方と夜間(19時)の訓練をしている。訓練結果を踏まえて様々な意見を頂き、夜間照明等を増やしたり、避難時に車いすに対応できるスロープ等が設置された。災害に備え、水や缶詰等の備蓄を行い、停電時の補助電源も準備されている。	地域の総会では、地域自主防災組織の一員として入れて頂き、災害時の避難受け入れができる体制も整えている。今後も市と連携し、ハザードマップを基に、自然災害を想定した防災計画等も作成していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念、職員の心得をケアの根本としているので、スタッフ個人個人振り返りを随時行うように気が付けています。	馴染みの職員となっており、職員全員で理念を共有し、ご利用者の尊厳を大切に、ご本人の立場でケアが行われている。言葉遣いに注意し、子ども扱いたし言葉を使わないよう指導している。“トイレは神聖な場所”と言う事を共有し、羞恥心への配慮も続けている。	今後も引き続き、ご利用者への言動を更に優しくできるように努めていく予定である。お互いの良い所を褒め合い、課題があれば、月別の傾向なども分析していく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを尊重し、スタッフがその思いを遂げられるように会議等で検討しご家族とも共有できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操などをするとき、カラオケをするときは利用者様の意見を取り入れておこなうようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に選んでもらい、好きな衣類を着用できるように努めています。たまに紅をさすと表情豊かに喜ばれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理を手伝って頂いた時は、『これでお昼ご飯の～～を作りますね』など、声掛けをして、食事が楽しみになるように心がけています。	ご利用者と買い物に行き、刺身などを選んで下さっている。管理栄養士や職員がバランスに配慮した料理を作り、糖尿病等の数値が改善された方もおられる。ご利用者も“ごぼうそぎ”やツツの皮むき、餃子包み、餅丸め等をして下さり、ホームの畑で収穫したお芋も好評で、芋料理も作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けによって、食べ方、飲み方が変わってくるので、どのような声掛けを行うと良いかをスタッフと情報のやり取りを行いながら支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをして頂き、口腔内の状態確認を行い、ご自分でできない方は職員が口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁予防のため、随時の声掛け、トイレへの誘導を行っています。	排泄チェック表をつけている。排泄感覚やご利用者のしぐさを感じ取り、個別のトイレ誘導を行い、布パンツを着用する方も多い。オムツを使用する方はおられず、食事や運動を取り入れ、薬を使わずに快便に繋げる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬、水分補給、運動量の加減を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	限られた時間であるが、そのなかで個人個人の希望に沿って実施。また歌と一緒に歌ったり、世間話をしたり。笑い声のある時間を1対1の有意義な時間と捉えて大切にケアを行っています。	入浴時間や順番などの意向を大切に、月曜から土曜は希望があれば入浴できる体制を整えている。同性介助も行われ、羞恥心の配慮をしている。菖蒲湯やゆず湯、バラ湯なども楽しまれ、入浴時は歌が聞かれている。お風呂好きな方も多く、できる範囲はご自分で洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態、訴えに応じ、昼食後はお昼寝をして頂き、夜は寝つきが悪い方はスタッフとテレビを見ながら眠たくなれるまで一緒に過ごされ、安心して寝て頂くように支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬剤師の方との連携を大切に、分からない事、疑問などをお聞きし、主治医とも連携を取り、何か変化があれば指示を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ・買い物・裁縫・工作個々で楽しみにされ定期的ではないですができる範囲で参加して頂き、今年は笑いヨガなども取り入れて利用者様の気分転換の支援ができればと思っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は機会ある限り行うようにしています。今後もご家族様のご協力をお願いしているところです。	車椅子や押し車で散歩できるように、外庭の道路が舗装され、近くの公園や畑などにも自由に外出されている。季節の花見やダム公園、海浜公園、大島大橋公園などのドライブと共に、ジャスコでの買い物も楽しまれた。ご利用者と砂糖や味噌等の買い物に行かれたり、「パチンコに行きたい」と言う事で、数名の方がパチンコを体験する事もできた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、施設での管理を基本としておりません。買い物の際、ご家族様の同意と予算に応じて、買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っておりませんが、お電話でのやり取りの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、室温計、カレンダー、浴室にご本人の着替えを数点おき、いつでも入浴できる体制作り、季節感を感じられるドライブ、テレビの音の調整、畑と庭先の花、作物の苗植え、収穫時、などを工夫して生きている今の季節感を理解できるようにしています。	玄関にある椅子がお気に入りの方が多く、来訪者を笑顔で出迎えて下さる。ご利用者も朝からモップ拭きをして下さり、掃除が行き届いており、ドライブや買い物などの生活風景を写真に撮り、ご利用者が行き来する廊下に貼られている。リビングにはソファのコーナーもあり、思い思いの場所で過ごされている。トイレの増設も検討されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ、玄関前の室内ソファ、玄関前の外にある長いす。居室にご本人、来訪者の椅子をその都度設置。スタッフと1対1になれる配慮(例、散策しながら悩みを傾聴)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の移動能力に応じ、居室の変更を行いました。変更の際にはご本人、ご家族の了解を得て実施。	タンスやテレビと共に、大切な仏壇や家族の写真も置かれ、朝からお仏飯を供えている。家具の配置などをご自分でレイアウトされたり、毛糸で人形の洋服などを編まれる方もおられ、個々の居室になっている。愛猫のトイレの砂(排泄物)も適宜交換し、換気もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今回、代表の計らいで玄関からベランダまでの庭先まで押し車椅子で自由に外庭に出られるようにコンクリートで道路を整備して頂いた。		